

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所の理念「和やかで 穏やかで」を事務所内の目に触れやすい場所に掲示して共有し合い、入居者が自然と身を委ねてくるようなサービスを目指し支援している。 | 「和やかで、穏やかで」という理念と3項目からなる「すめらぎの心」を事務所正面に掲示し、来訪者に分かるようにし、また、職員間での共有と実践に繋げている。ベテラン職員も多数おり、理念の持つ意味を良く理解して日々の支援に当たっている。新入職員はそうしたベテラン職員の背中を見て業務内容の向上に取り組んでいる。家族に対しては利用契約時に理念に沿った支援内容について説明している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 開所以来、幼稚園児や小中学生との交流、地域のイベントへの参加など地域とのつながりを継続できるよう支援してきたが、コロナ禍以降は参加や交流ができない状況にあった。現在は5類になったとはいえ感染予防の視点から積極的に行えていないが、今年10月に中学生との交流会を計画した(当日、中学生に体調不良者が多く中止となった)。感染対策を行いつつ再開を始めていくところである。今後は以前のように日常的に交流できるよう感染状況をみながら計画していきたいと考えている。 | 開設以来、法人として区費を納め地域の一員として活動している。市や地区の広報紙も回していただき、利用者も毎月、それらを見て地域の状況を把握している。新型コロナ禍以降、地域行事には積極的に参加できていないが、正月の「どんど焼き」の際には隣接する老人保健施設やホームの松飾りを出して参加し、今年10月には地域の中学生との交流も計画されていたが中止となってしまった。また、コロナ前には楽器演奏、マジックショー、歌等、多数のボランティアが行事に合わせて来訪し利用者も楽しいひと時を過ごしており、現在、まだ難しい状況が続いているが、感染状況を見ながら再開したいという意向を持っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通してグループホーム及び当事業所を知っていただく機会を設け、更に認知症の人の理解や支援方法を伝えている。地域の道の駅への外出も再開できるよう計画していきたい。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、奇数月に開催している。感染対策として昨年5月までは隣接している老健の広いスペースで行っていたが、現在はグループホーム内で行っている。ホーム内で行うことで入居者が活動している様子をうかがえたり歌声が聞こえてきたりと入居者の様子を感じていただくことができていく。会議では現状報告のほか事故報告を受けての対策、行事での利用者の様子などを報告し、参加者から意見や要望をいただいてサービス向上に活かしている。また地域の方の情報交換の機会にもなっている。 | 利用者家族代表、区長、民生委員、長野市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、駐在所員、在宅介護支援センター職員、看護師、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、奇数月に開催している。利用状況、事故・ヒヤリハット、行事結果、行事予定などを報告後、意見、要望、質問等を頂きサービスの向上に繋げている。なお、利用者家族の出席については毎回順番で出席していただくようにしている。また、今後は毎回テーマを決めて提案し、出席者の様々な視点から意見、要望を頂き、ホーム全体の運営の充実に繋げていきたいと考えている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議を通じ、現状を知っていただき情報の共有に努め連携を図っている。市の介護あんしん相談員派遣が再開し、定期的に訪問していただいている。 | 市高齢者活躍支援課には事故・ヒヤリハット報告を速やかに行い、連携を取っている。地域包括支援センターとは入居相談等、運営に関する相談をしている。介護認定更新調査は市の調査員がホームに来訪し、管理者とケアマネジャーが対応している。また、市の介護あんしん相談員の来訪も再開され、月1回～2ヶ月に1回ほど、相談員が30分～1時間位、利用者の話を傾聴したり相談などに応じている。 | |

グループホームすめらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 隣接している老健の職員と合同で月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、委員以外の職員には委員からの報告や議事録の回覧で委員会の内容を周知している。年2回の研修も行い身体拘束廃止について意識を高めていて身体拘束をしないケアを継続できている。 玄関の施錠は防犯上及び安全確保のため行っている。 | 方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠されている。帰宅願望のある利用者が若干名いるが、利用者の想いを受け止め、優しく寄り添い、話をして落ち着いていただくようにしている。転倒危惧のある方がおり、家族と相談の上、人感センサーを使用している。また、利用者の安全を確保して快適な生活を送っていただくべく全利用者のベッドに見守りICTセンサーをセットしてパソコン画面で睡眠の状況等の情報を把握し、特に夜間の支援に役立てている。なお、使用状況については生産性向上委員会を開き、確認し合っている。そうした中、隣接の老人保健施設と合同で月1回身体拘束廃止委員会を開き、意識を高めつつ日々の支援に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 隣接している老健の職員と合同で毎月虐待防止委員会を開催し、委員以外の職員には委員からの報告や議事録の回覧で委員会の内容を周知している。年2回の研修や事例の検討を行い身体的虐待、心理的虐待防止について意識を高めている。入浴や更衣時に身体チェックを行い、職員同士で声を掛け合って虐待が見過ごされることがないように努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 以前は成年後見制度を活用している方が入居していたが、現在は活用している入居者がいないこともあり、管理者を含め職員全体の理解がうすれているように感じる。今後はミーティング時などに権利擁護に関する制度について学ぶ時間を設けたり研修に参加するなどして理解を深めたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 管理者は利用開始前に施設内の見学を行い、利用者や家族からの不安や疑問点を尋ね説明を行っている。利用開始時には契約内容、運営規定及び重要事項の説明を十分に行い理解・納得を図っている。解約や改定等の際にも同様に説明を十分に行い理解・納得を図っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 自発的な訴えが少ない方には職員から意識的に声かけをするなど日々の関わりの中で話しやすい雰囲気づくりを心がけている。家族との面会時に生活の様子を伝えたり家族の要望を伺ったりしている。入居者や家族等の意見や要望は職員間で共有し、ミーティングやカンファレンスで話し合っ運営に反映できるよう努めている。 | 家族の面会については検温等の感染対策を取りながら面会ルームにおいて20分位を目安に行っている。多く来訪する家族は週1回位見えられ、歓談している。また、面会時、天気の良い日には庭を散策していただき写真を撮ってお渡ししている。そうした中、月1回の行事や誕生会の様子等、ホームでの生活の様子を毎月発行される「うめだより」に載せ、請求書に同封して家族に届け、好評を得ている。更に、利用者が制作した「ぬり絵」「ハリ絵」等の作品を面会時にお渡し喜ばれている。今後は感染状況を見ながら「敬老会」等に合わせて家族参加も再開して行きたいと考えている。 | |

グループホームすめらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のミーティングで意見や提案などの発言を促して可能な限り反映させる努力をしている。また、年1回のストレスチェック結果を参考に必要に応じて事務長を指示役とした環境改善に着手できる体制を整えている。 | 月1回、月末に全体ミーティングを行い、連絡事項、行事報告、行事計画、一人ひとりの利用者のカンファレンス、業務改善などについて話し合っている。また、研修会参加者からの報告も行い、意見交換等も行い、業務内容の向上に繋げている。そうした中、職員は年度初めに自己目標を立て、半年に1回自己評価を行い、それに合わせて法人事務長、管理者による個人面談が行われ、意見交換の場とすると共にモチベーションアップに繋げている。更に、年1回、職員対象にストレスチェックが行われており、メンタルヘルスにも配慮がされている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 事務長による管理者へのヒアリングや職員個々との面談で状況把握に努め代表者の指示のもと柔軟な対応を心がけている。令和7年7月には休日を増やすなどした就業規則の改定を行った。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は事務長を通して管理者や職員の状況を把握に努めている。技術向上などについては隣接する老健と共催する形で感染対策をはじめとした研修を実施している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍で途絶えたグループホーム同士の交流を再開できていないが、代表者や事務長が他法人の介護施設との情報交換を随時行っており、生産性向上のヒントを得るなどしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居の問い合わせや事前見学の際に本人の困りごとや要望などを聴き取り、生活歴や性格などの情報や要望などを職員間で共有して入居時から安心を確保できるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス導入に至った経緯や困りごと、入居してからの要望などを傾聴し、家族等の想いを受け止めて不安の軽減及び安心の確保ができるよう関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人及び家族から話を伺い、今必要としている支援を見極め、緊急性を含めてサービスの選択肢の中から本人や家族が納得できるよう対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人に出来ることはやっていたり、やっていただいたことに対して労いの言葉を伝え、また入居者に教えていただいたことには感謝を伝えてお互いに支え合う関係を大切にしている。 | | |

グループホームすめらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の様子や状態を適宜報告し、本人や家族の意向を確認しながら必要な支援と方法を共に考えていけるように努めている。そのほか、必要に応じて見守り介護機器の睡眠日誌などを印刷し面会時に家族に渡している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 理髪は地域の理髪店に来ていただいている。入居前から利用している方も多くとても喜ばれている。毎月施設に届く広報誌や地域の情報誌などは入居者にも見ていただいている。面会は家族以外にも親戚や友人、知人なども受け入れ、気軽に来ていただけるような雰囲気づくりを心がけている。 | 独居から入居された利用者が数名おり、親しくお付き合いをされていた近所の方が面会に来訪し、歓談している。携帯電話をお持ちの方がおり、家族と連絡を取り合っている。化粧品、ハンドクリーム等、使い慣れた日用品や衣替えの衣料品等、欲しい物については家族に連絡して届けて頂いている。家族が遠方の場合には家族の了解を得て管理者が買い物して渡している。理美容については地域の顔なじみの理容師の来訪が毎月あり、利用者は2～3ヶ月に1回、親しく会話を楽しみながらカットをしていただいている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 作業などは複数人に声をかけて入居者同士が協力して行えるよう配慮している。入居者同士の良好な関係が維持できるよう職員間で情報を共有し、入居者同士で共通の話ができるよう配慮したり、必要に応じて仲介に入ったり席替えをしたりして対応している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了する際には、施設での生活の様子を収めたアルバムや本人の作品を渡している。次のサービス利用までの行政や他事業者と連絡を取り合い、相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前には生活歴などを情報収集し、入居してからは日々の関わりの中から本人の希望や意向を把握できるよう努めている。また、入居時にはアドバンスケアプランニングシートを使って意向の確認を行っている。 | 殆どの利用者は意思疎通の出来る状況となっているが、若干名の難しい方については簡単な質問をして二者択一も含めて希望に沿えるようにしている。また、耳の不自由な利用者には耳元でゆっくり解りやすく話しかけるようにしている。中には筆談が必要な方も若干名おり、ホワイトボードを用いて提案して意向に沿えるように努めている。日々利用者と接する中で気づいた事柄についてはケア記録として「日中は黒字」「夜間は赤字」で記載し、申し送り時に確認して利用者の希望に沿えるようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 申し込み時や契約時に家族や在宅のケアマネジャーから生活歴や生活環境などの情報をいただき、職員間で情報を共有して把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居当初は事前情報を参考にし、入居してからは入居者自身を観察したり関わりの中から把握できるようアセスメントを行っている。 | | |

グループホームすめらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意向、カンファレンスでの意見や提案をもとに介護支援専門員が介護計画を作成し、状態に応じて見直しを行っている。必要に応じて本人や家族などとの話し合いを行い、主治医にも指示を仰いでいる。 | 職員は2名の利用者を担当し、居室管理、衣替え、配薬、日々の状況把握等に当たっている。家族の希望は入居時や面会時に伺い、カンファレンスの席上で意見を出し合いモニタリングも行い、ケアマネジャーがケアプランの作成に取り組んでいる。入居時は1ヶ月の暫定プランを作成し、様子を見て短期目標3ヶ月のプランを作成し、状態が安定している場合は6ヶ月で見直しを行っている。また、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりの利用者に合った支援に繋げている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々のバイタルや食事摂取量、排泄状況などを個別のシートに記録して職員間で共有している。主治医とも情報共有してバイタルの変動確認や排便コントロールなどに活用し、ケアの実践や見直しに活かすことができている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族の状況に応じて、対応困難な場合はこちらで支援している。医療連携や隣接している老健との協力、地域資源を活用して、柔軟な支援ができるよう努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 以前行っていた近隣の道の駅への外出や外食、地域の行事への参加は控えているが、今年度は中学生との交流を計画し少しずつ地域資源との協働の再開に向けて動いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望に応じて医療が受けられるよう入居時に説明を行い支援している。協力医の中条診療所との連携もとれていて、毎月1回の訪問診療以外にも随時往診を依頼している。歯科往診も毎月1回程度ある。入居前からのかかりつけ医への通院は家族に対応していただいている。 | 入居時に医療機関についての利用状況を伺い、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、全利用者がホーム協力医の月1回の訪問診療で対応している。協力医が月2回、看護師も同行して訪れており連携を図ると共に、体調に変化が見られた時には随時の往診も可能で適切な医療が受けられるようになっている。併せて夜間の緊急対応については隣接する老人保健施設の看護師と連携を取り対応するようになっている。整形、眼科等の受診については家族の同行をお願いしている。歯科については3週間～1ヶ月に1回、歯科医と歯科衛生士の来訪があり、口腔ケアを含めた対応をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員の准看護師に報告、相談を行い、協力医の中条診療所看護師とも連携が取れている。また、隣接する老健の看護師とも連携が取れていて適宜適切な看護を受けられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際には、病院関係者と情報交換や相談を行えるよう努めている。また、相談し合える関係づくりに努めている。 | | |

グループホームすめらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居者が重度化した場合における対応に関する指針があり、契約時に家族及び本人に説明し同意書をいただいている。状態の変化に応じて家族への説明、隣接している老健や協力医と連携し事業所としてできる支援に取り組んでいる。 | 重度化した際の指針があり、利用契約時に本人や家族に説明して同意を頂いている。入浴や食事を摂ることが難しい状況に到り重度化した際には家族の意向を確認の上、協力医と連携を取りながら意見書を頂き、区分変更の申請も行い、ホームとして可能な限りの支援に当り、状況に応じて医療機関や老人保健施設等への住み替えも含めた支援に当たっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 入居者の急変など緊急時の対応について事務所内に掲示し周知している。AEDの使用方法など初期対応については職員の看護師から説明を受け、対応できるように訓練している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回消防訓練を行い、避難経路や消火器使用方法の確認、通報訓練、避難訓練を行っている。また、年1回土砂災害訓練を行い、防災マニュアルの読み合わせ、避難経路や避難行動の確認などを行っている。 | 年2回消防署へ届け出の上防災訓練を実施している。6月と11月の2回火災を想定した訓練を行い、通報訓練、消火器の使い方訓練、避難経路の確認、利用者の代表を外へ移動しての避難訓練、非常持ち出し物の確認、居室入り口の「のれん」が床から1メートル以上離れているかの確認等を行っている。併せて、今年度は3月に土砂災害を想定した避難訓練も行い防災意識の向上に繋げている。緊急連絡網の確認訓練は法人からの一斉メール配信で行っている。備蓄については隣接する老人保健施設に備えているが、ホームとしても「缶詰め」「お米」を用意しており「水」についても準備する予定を立てている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人的な話は居室でし、言葉遣いに気を付け、名前はさん付けで呼ぶなど一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。 | 人生の先輩として敬意を持ちながら、敬語を使いつつ方言も交えながら親しく接するようにしている。また、トイレ介助にお誘いする場合は人前では声掛けしないように徹底している。更に、個人的な話は居室内でするように心掛けている。呼び掛けは基本的に下の名前を「さん」付けでお呼びし、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けをするようにしている。年2回、隣接する老人保健施設と合同で虐待防止、プライバシー保護に関する勉強会を行い、利用者の尊厳に配慮した支援に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者の希望を聞きながら対応したり、入居者自身が選択し自己決定できるよう働きかけたりしている。自発的な訴えが少ない方も自己決定できるよう声かけに配慮して対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活リズムやその日の体調、気分に合わせて、その人らしい暮らしができるよう希望を聞きながら支援している。 | | |

グループホームすめらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣服などは入居時に個々の好みに合わせて準備していただき、必要な時には家族に準備をお願いしている。化粧道具が必要な方には好みの物を使えるよう家族に準備をお願いし支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 土用の丑の日には鰻、誕生日会や敬老祭などの行事の日には特別食を提供している。GHの畑で収穫した野菜を使っておやつを作ったり調理レクでは入居者にできることをやっていただき役割を持って楽しんでいただいている。 | 大半の利用者は自力で食事が摂れる状況で、若干名の方が一部介助という状況になっている。献立については朝食、夕食は職員が献立を立て調理して提供している。昼食については季節感も加味した食材が配食会社より届き職員が調理してお出ししている。利用者もタマネギの皮むき等、野菜の下処理などのお手伝いをしている。そうした中、年末年始には「年越し蕎麦」と「豪華弁当」、ひなまつりや敬老会には「ちらし寿司」、土用の丑の日には「鰻」、クリスマスには「ケーキ」等、行事や季節に合わせて味を楽しんでいただいている。また、月1回食事レク、おやつレクを行い、ホットプレートを使用して「やきもち風ぜんざい」「こねつけ」等を作り楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 量や形態は個々に状態や好みに合わせて提供している。体重の増減に合わせて食事量の検討、調節も行っている。水分摂取が少ない方には摂取してもらえるよう工夫して脱水にならないよう心がけている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 声かけで促す方、介助する方など一人ひとりの状態や能力に応じて支援し口腔ケアに努めている。月に1回程度訪問診療があり歯科治療や検診を行って口腔衛生に努めている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表でパターンを把握し、できるだけ失禁を少なくし、トイレで排泄できるよう個々の能力に応じた排泄援助を行っている。 | 日中は自立されている方が大半で、一部介助の方が若干名となっており、また、夜間については自立の方が三分の一弱、ポータブルトイレ使用の方が半数強、おむつ使用の方が若干名という状況で、利用者一人ひとりに合わせて支援している。排泄表も参考に状況を見ながら早めに声掛けをして気持ち良く過ごしていただけるようにしている。排便についても排泄表を参考に、排便が3～4日ない時には協力医に相談してコントロール等の対応をしている。また、「水」「お茶」「コーヒー」「スポーツドリンク」等で1日1,200cc～1,500ccの水分摂取に取り組み、スムーズな排泄に繋げている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分摂取を促し、おやつに乳製品や寒天を取り入れるなどしている。そのほか毎日体操や散歩を取り入れて自然排便を促し便秘予防に取り組んでいる。 | | |

グループホームすめらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日や時間帯は決めているが、順番は希望に合わせて柔軟に対応している。入浴拒否がある場合は誘い方を工夫して入浴支援している。季節を感じていただけるよう入浴剤を数種類用意し、冬至にはゆず湯を提供している。 | 自立している方と全介助の方がそれぞれ若干名ずつで、一部介助の方が三分の二強という状況である。浴室には一般浴槽と機械浴槽が設けられ、状況に応じて安全な入浴が行われている。基本的に週2回、入浴を行っている。入浴拒否をされる方が若干名いるが誘い方に工夫をして入浴できるようにしている。季節に応じて何種類かの入浴剤を用意すると共に冬至には「ゆず湯」を用意して温まっていたくようにしている。入浴後には「スポーツドリンク」を飲んで水分摂取に繋げている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 眠りスキヤンの睡眠日誌を参考にし睡眠傾向を把握するように努めている。早めに入床する方、テレビを見てから休む方など、就寝・起床時間は一人ひとり異なっている。日中の過ごし方の工夫や環境づくりを行い休息や安眠ができるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の変更や新しく処方があった時は申し送りノートで全員に周知し、薬の詳細は全スタッフがいいつでも見ることができるようファイルしてある。配薬ミスを防ぐよう薬の準備の際はダブルチェックを行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や日々の関わりの中から楽しみごとや得意なことを見つけ活かせるよう支援している。洗濯物たたみや畑の野菜の収穫で役割を持つ方、読書や切り絵で趣味を楽しむ方など一人ひとりに合わせた支援をしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりのその日の希望にそって外出することは難しい状況にあるが、天候に合わせて玄関先や駐車場で外気浴を行いながら花見をしたり紅葉を見たりする機会を持つようにしている。また、面会時に家族と散歩する機会を持てるようにしている。 | 外出時の歩行状態は自力歩行の方が若干名、杖・シルバーカー・歩行器使用の方が合わせて三分の二、車いす使用の方が数名という状況である。天気が良い時には外に出て散歩や外気浴を楽しんでいる。また、年間を通してホームの畑では季節に応じた野菜を栽培しており、収穫等も楽しんでいる。併せて、家族の面会の際にはホームの周りを散策したり写真を撮ったりして家族とのひと時を過ごしている。法人の方針としてまだ外出レクリエーションが再開されていないが、状況を見ながら近くの道の駅ぐらいまでは外出したいという意向を持っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、金銭を使う機会がないことやトラブル回避のため金銭の所持支援は控えている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人、家族や大切な人の希望があれば電話や手紙のやり取りができるようにいつでも対応している。 | | |

グループホームすめらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各フロアは季節の装飾や置物で季節感を感じられるよう工夫し、各ユニットにはオープンキッチンがあり生活感を感じられるようになっている。フロアでも日差しを感じられるよう天窓があり、居心地のよい環境になっている。 | 広々とした敷地内に建つ当ホームは各ユニットの庭先に家庭菜園が設けられ、一年を通して様々な野菜が栽培され利用者は収穫を楽しみ、新鮮な野菜が食卓に上っている。各ユニットの共有スペースは十分な広さがあり、その中央に円形のホールがあり、全利用者と職員が食事を共にする食事テーブルも置かれ、体操、ゲーム、各種行事等を楽しむ憩いの場となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアは広く、自然に集まり談笑できる環境になっている。日光浴を希望される方は日向へ誘導し、そこで居眠りしたり談笑したりと思い思いに過ごしていただいている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用していた物をそのまま使っているように、使い慣れた家具や愛用の物を持ち込んだり、テレビを見る習慣がある方はテレビを持ち込んだり、家族との写真を飾ったりして居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 円形のホールを囲むように各居室が配置されている。居室には大きなクローゼットと洗面台が設けられ暮らし易い造りとなっている。入り口には「のれん」が掛けられプライバシー保護にも配慮がされている。家族と相談の上、使い慣れたタンス、イス、テレビ等が持ち込まれ、家族の写真や誕生日のお祝いメッセージカード、季節の花々に囲まれ、思い思いの日々を送っていることが窺えた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部はバリアフリーであり、動線や生活スタイルを確認して安全に移動できるように環境整備を行い、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | | |